

『教訓の継承と時代に即した柔軟な組織の構築』



神戸市消防局長 栗岡 由樹

はじめに、元日に発生した能登半島地震で被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、神戸市は海と山の自然環境に恵まれたまちで、港とともに発展してきました。現在は都心・三宮の再整備やウォーターフロントの魅力空間の整備など、「海と山が育むグローバル貢献都市」として取り組んでいます。

近年の災害に目を向けますと、気候変動の影響もあり集中豪雨や相次ぐ台風の襲来、大規模な山林火災の発生など、自然災害は激甚化・頻発化の傾向にあります。そのため、様々な災害を想定した実践的訓練による対応力の向上や新たなテクノロジーの活用など、消防力の充実強化に取り組んでいます。

また、2025年1月で阪神・淡路大震災の発生から30年を迎えます。全国各地で大規模な地震災害が発生している中、震災の経験とそこで得られた知見や教訓が、震災を経験していない世代へ継承されているか再確認するとともに、それらを踏まえて進めてきた様々な取り組みを総点検し、今後発生が危惧される巨大地震などの大規模災害への備えにつなげることも大切であると考えています。

さらに、消防団や自主防災組織に若者や女性の参加を促進するとともに、地域に潜んでいる様々な災害リスクを認識した上で、ともに地域を守っていく防災意識を高めることも重要であると認識しています。

一方、デジタル技術の急激な進化や社会環境の変化に応じて、安全性と利便性の高い新たな技術や知見の導入など、消防機関には時代に即した対応が求められています。

神戸市消防局では、市民や事業者の利便性の向上に向けて、消防法令に基づく各種申請・届出の電子化、Webシステムを活用したオンラインによる相談・打合せ、消防手数料のキャッシュレス決済、行政処分通知の電子交付など、ICTを活用した消防業務のDXに取り組んでおり、一部の手続については電子で完結する環境を整えています。

特に、申請・届出の電子化については、RPA（Robotic Process Automation）を活用することで、申請データのダウンロードや申請者への控えの交付手続きを自動化し、消防職員の事務負担の軽減を図っています。

また、急速な少子高齢化が進む中、救急需要の増加が予想されています。引き続き「救急安心センターこうべ（#7119）」などの電話相談窓口の利用や民間搬送事業者の利用促進など救急需要対策を進めていくとともに、救急活動において、救急隊と医療機関の情報連携のデジタル化を進め、救急事務の負担軽減にも力を入れ、安定的な救急搬送体制の維持に努めてまいります。

さらに、隣接する三田市消防本部と消防指令センターの共同運用に向けて、消防の連携・協力にも取り組んでまいります。

最後になりますが、自治体消防が発足してから長い歴史の中で培ってきたものや築き上げてきたものを若い世代へと継承する一方、少子高齢化・人口減少社会など、これからの時代の変化を見据えて柔軟に対応できる消防組織の構築を進めてまいります。あわせて、様々な消防行政の課題に的確に対応するために、消防が持つ総合力の充実強化にも取り組み、安全で安心なまちの実現を目指してまいります。